

誰のためのカップ&ソーサー？

カップとソーサーの制作（使い手を想定して作ろう！）

1. この授業でつけたい力（題材の目標）

カップとソーサーの制作に関心を持ち、社会的な視点に立って使う人や場などに求められる機と表現の工夫を感じ取り、生活や社会を豊かにする工芸の働きについての理解を深める。

2. 材料

二面図用方眼紙，半磁土，陶土（信楽並 or 信楽特漉し・白），陶芸用成形用具（カンナ，ヘラ，

3. 展開 [合計 15 時間（実施時間数 14 時間 + 鑑賞 1 時間）]

展開	主な内容	時間数
導入	①陶芸について ・主な成形方法と工程について学ぶ。 ②課題について理解する。 ※Power Point・ワークシート等使用	1 時間
構想	①アイデアスケッチをする。 ・使う目的や人，場面などを考えながらスケッチをする。 ②設計図（二面図 or 三面図）を作成する。（縮む事を考慮し実寸で作成）	2 時間
制作	①土練りを行う。 ・半磁土と信楽特漉きの2種類の粘土を1対2か1対3の割合で混ぜる。 ・土練には，荒練りと菊練りがある事を知り，練り方の違いを学ぶ。 ②成形 ・紐作り・手びねり・たたら板づくり等の技法を用いてカップの本体とソーサーを制作する。 ・取っ手の制作をする。 ③削り・接合 ・高台は底が繋がっているようにカンナを使い，削り出す。 ・取っ手などを取り付ける。 ※接合する時は，接合部分に傷を付け，ドベを塗り，細い粘土で補強する。 ④加飾 ・生乾きの状態の時に彫り模様やスタンプ等の加飾を施す。	1 時間 6 時間 ※③と④ を合わせ て2時間

能を考え、意図に応じて創意工夫し作品を制作するとともに、ほかの生徒の作品から作者の意図

切り針、弓、なめし皮、切り糸 等) 手廻し轆轤、透明なアクリル板、釉薬

Power Point の画面 (一部抜粋)

カップとソーサー

デザインを考えよう!!

でも・・・ちょっとその前に・・・

どうやって持つ?

握る? つまむ? 指を通す?

これは、どうだろう?

カップも色々・・・

用途によって使い分けるカップ

コーヒー用は紅茶程高温の水で抽出しなくても味に変わらないとされる為、口径を小さく冷めにくくし、高くすることで容量を増やしたとされる。

スープ用のカップは・・・?

デザインを見比べてみよう!

1. シンプルな形に絵付けでオリジナリティを出したもの

絵付けも、形を生かして工夫次第で・・・

企画書・ワークシート

「誰のためのカップ&ソーサー?」企画書

年 組 番 氏 名

決定! [] のための
カップ&ソーサー

☆作品のコンセプト (作品に込める思いや想い、デザインや目的など)

☆使用する人や場 (だれが、どこで?)

☆求められる条件 (あらゆる既成を想定して)

☆入れるもの (コーヒー・スープ・お茶・紅茶? など)

☆工夫するところ (見せどころ、使いどころ?)

アイディアスケッチ

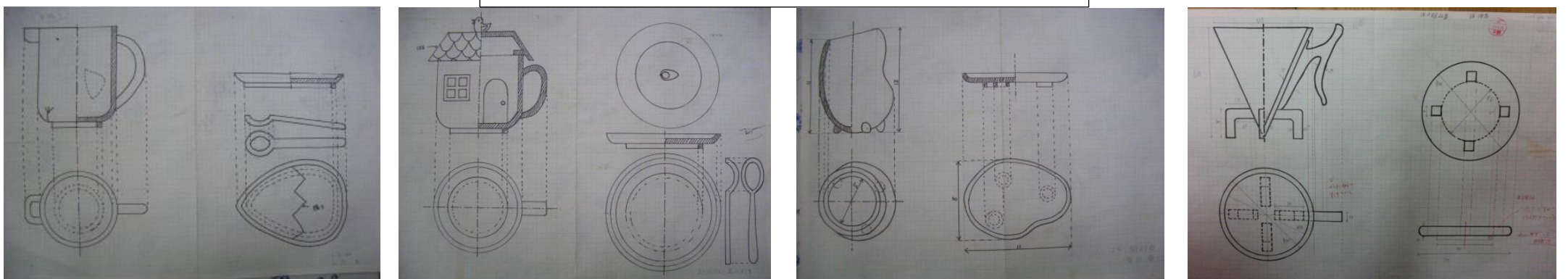
「誰のためのカップ&ソーサー?」ワークシート

以下のどの項目にも書き込んでみる。年 組 番 氏 名

	だれが?	なにを?	どこで?
設 定	子供	ジュース	自宅で おやつの時
条 件	楽しいカップ 持ちやすい 安定感がある		
工 夫	見た目の形が 楽しい		
形 体	両手を使う		

←※市販されているカップより一部写真使用

生徒の設計図と作品



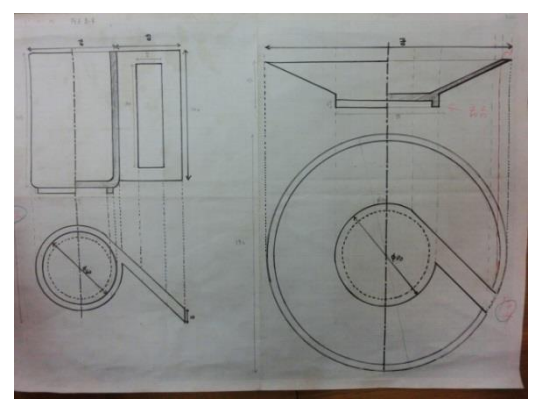
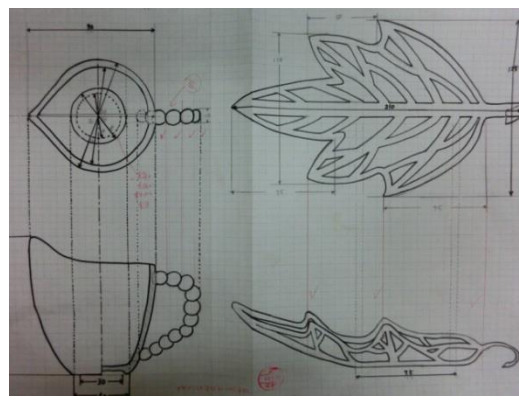
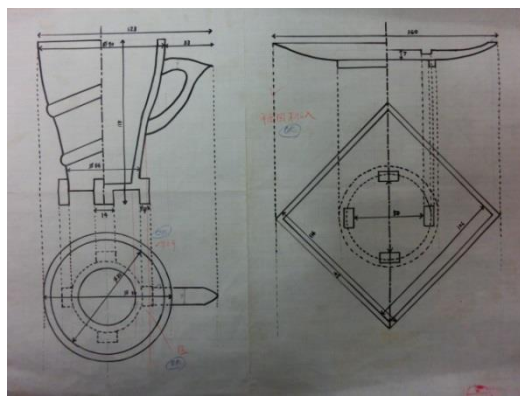
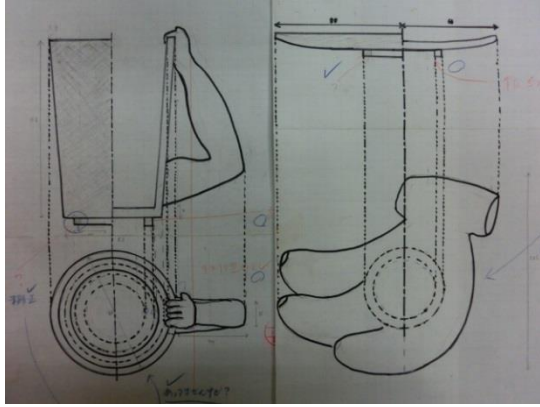
	<p>※乾燥させながら（養生させながら）の作品制作となる為、適度な乾燥状態（生乾き）を保つ工夫をさせる。</p> <p>⑤乾燥させる。</p> <p>⑥窯詰め・素焼き（※授業時間以外で実施・放課後等）</p> <p>⑦下絵付け・釉掛け</p> <p>⑧窯詰め・本焼き（※授業時間以外で実施・放課後等）</p>	2時間
鑑賞	①合評会を行う。	1時間

4. 観点別評価（学習活動に即した評価基準）

工芸への関心・意欲・態度	発想や構想の能力
<p>表現 関① 社会的な視点に立って、使う人の気持ちや使用する場などを考えてカップとソーサーを制作することに関心を持ち、主体的に発想し、求められる機能と美しさなどを考えて構想を練ろうとしている。</p> <p>表現 関② 粘土の特性、用具の使用方法などに関心を持ち、主体的にそれらの効果を生かし、手順や技法などを吟味しながら制作しようとしている。</p> <p>鑑賞 関③ 造形的な美しさと用途や機能との調和、作者の意図と表現の工夫などに関心を持ち、工芸が生活や社会の中で果たしている役割などについて理解しようとしている。</p>	<p>発① 社会や生活環境を広く観察し、カップやソーサーを使う人や用いる場面、求められる条件を考え、他者の視点に立って発想している。</p> <p>発② 使用する人や場にも求められる機能や条件、美しさなどを整理し、形や色彩、質感などの造形要素や構造について考え、客観的な視点に立って構想を練っている。</p>

5. その他

敢えて、陶芸によるカップとソーサーの制作を「A 表現（1）身近な生活と工芸」にせず、持って制作することが出来ていると感じる。それは、合評会の際にも自分の作品のコンセプト等の拘りを感じる。作品は、制作して終了ではなく、鑑賞としての合評会も実施しているが、毎年を飲む経験は初めての生徒が多く、楽しいひとときとなった。また、実際に使ってみることで、



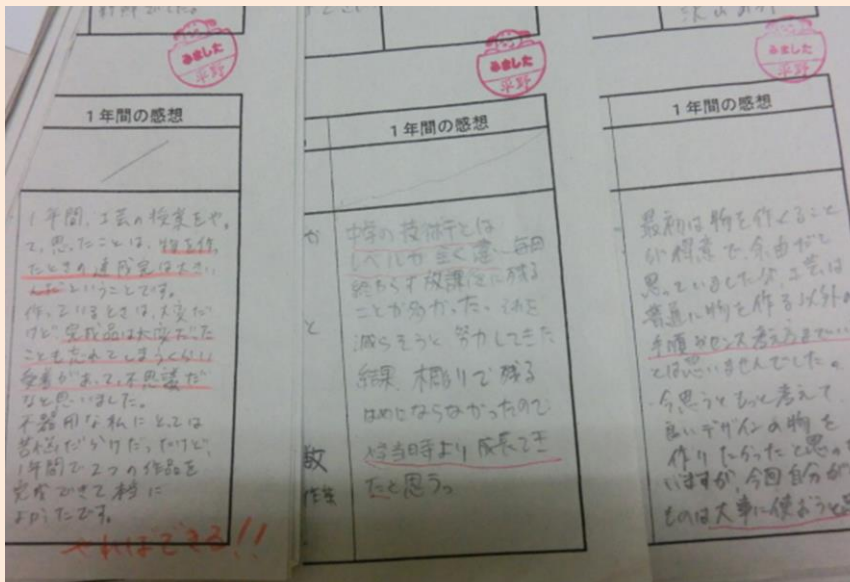
創造的な技能

創① 粘土の特性，用具の使用方法などを理解し，意図に応じてそれらの効果を生かし，計画に基づいて工夫しながら制作している。

鑑賞の能力

鑑① 作者の意図と表現の工夫などを感じ取り，分析するなどして，作品についての考えをもつとともに，工芸が生活や社会の中で果たしている役割などについて理解している。

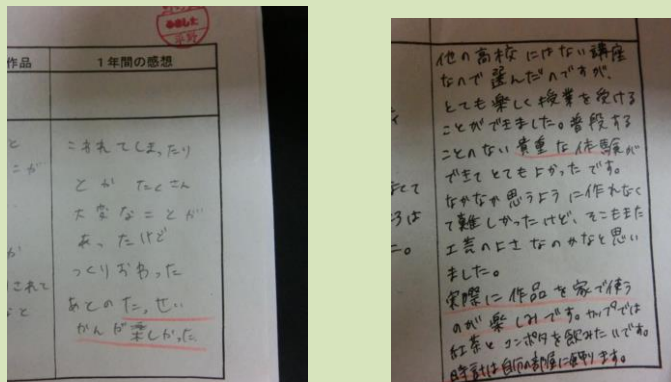
生徒の感想



合評会記録用紙



生徒の感想



「A表現 (2) 社会と工芸」と設定した授業を行っている。その結果，生徒が目的をしっかりとについて，自分の考えを述べる事が出来る生徒が多い事からも伺える。また，自分の作品について行っている水実験の他に，昨年度は実際にお茶会を催してみた。自分の制作した器で，実際にお茶生徒自身も私も新たな発見があった。